

(公表様式1)

福島県福祉サービス第三者評価結果表

①施設・事業所情報

名称：福島県ばんだい荘あおば	種別：障害者支援施設
代表者氏名：園長 武藤よし子	定員（利用人数）： 60名（60名）
所在地：福島県耶麻郡猪苗代町大字長田字西五十滝3967-1	
TEL：0242-65-2711	ホームページ： bandaisou@snow.odn.ne.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和43年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 福島県社会福祉事業団	
職員数	常勤職員： 30名 非常勤職員 5名（嘱託医2名）
専門職員	看護職員 1名 栄養士 1名
	生活支援員 15名 サービス管理責任者 1名
	介護職員 8名
施設・設備の概要	（居室数）1人部屋（4）、2人部屋（28）、短期入所専用床（2）計34部屋 （設備等）食堂・作業室・生活指導室・浴室（男女別）・静養室・医務室・厨房・体育館・会議室・交流室・ボランティア室・家族室・トイレ・洗面所・事務室・指導員室・スプリンクラー設置・洗濯室

②理念・基本方針

<p>（理念）</p> <p>福島県社会福祉事業団経営理念 「私たちはお客様の人格・人権・命を守ります。」</p> <p>（基本方針）</p> <p>福島県ばんだい荘あおば基本方針</p> <p>①お客様本位のサービスの提供と一人ひとりの満足度の向上</p> <p>②セーフティーネット機能の強化</p> <p>③地域との連携及び地域福祉の推進</p> <p>④コスト意識の高揚と経費の節減</p>

③施設・事業所の特徴的な取組

・猪苗代養護学校が隣接していることから日中一時支援の要請が多く、短期入所とあわせて利用者数が増えている。このように地域生活を支える福祉施設として期待されることも多い。その中で一人ひとりの利用者の様々な障がい特性に応じた支援ができるよう、より質の高いサービス提供をめざし、専門性の強化など人材育成に力を入れている。また、利用者の意向や状況に沿った地域生活ができるようグループホームの増設を検討するなどして、障がい者の地域生活移行とその定着化をめざした支援に取り組んでいる。

・ばんだい荘あおばには、利用者と職員で構成する「ばんだい荘和太鼓の会」があり、活動を始めて27年目を迎える。和太鼓を通して地域行事等への参加も積極的に行っている。

④第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成26年6月10日（契約日） ～ 平成26年12月17日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	なし 回（平成 年度）

⑤第三者評価機関名

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

⑥総評

◇特に評価の高い点

<経営状況・地域ニーズの把握>

・法人としての経営状況の把握・分析に加え、施設としての経営状況の把握・分析を的確に行っている。

・併設している相談支援事業所が、会津全域から在宅障がい者に関する相談を受け、ニーズを把握すると共に支援困難ケースへの対応に関する助言を行っている。また、短期入所者数の増加に伴い職員を増員し、利用者の支援体制を強化している。さらに、地域生活移行の準備をしている利用者のため、グループホームの増設を次年度に向け検討している。

<利用者本意の福祉サービス>

・苦情解決の体制が整備され、家族懇談会では職員は入らず、苦情解決委員と家族での小グループ制で意見交換を行ったり、約7割の利用者が参加している「ワイワイ会」（利用者が意見を述べる場）を月1回各棟で実施し、意見や要望を出しやすい環境づくりを心がけている。

<日常生活支援・食事>

・嗜好調査では、すべての利用者に絵を見せて意向を把握し献立に反映したり、毎月、

食事と健康を考える会を開催して食事から健康面をサポートしている。また、「食いしん坊会」（管理栄養士と利用者との話し合いの場）を年2回開催し、利用者の意見や要望をとり入れ行事食や献立に反映させ楽しく食事ができる環境にも心がけている。

◇改善を求められる点

＜福祉人材の確保・育成＞

・「期待する職員像」を明確にせずに年1回人事考課を実施しているので、どのような職員になればいいのか不明確なまま、個人ごとの課題・目標が設定されている。今後は平成26年4月に作成したキャリアパス構築のイメージをもとに「期待する職員像」を明確にした上で人事考課を行ってほしい。さらに、人事考課を効果的に活用し受講したい研修や取得してほしい技術・知識等を話し合い、個人ごとに研修計画を策定し計画的な職員育成に努めてほしい。

・夏季休暇取得率が77.6%であり、かつ年次有給休暇取得率が23.3%と低いため、取得率を高める取り組みを積極的に行ってほしい。

＜地域との交流、地域貢献＞

・利用者と地域との交流を広げる取り組みについては、施設内及び地域の行事に和太鼓の会を中心に参加している。今後は、より積極的に地域行事（文化祭等）へ参加しながら施設で進めているボランティアサポーター登録者を増やし、利用者からの要望が多い「外出」を支援してほしい。

＜福祉サービスの質の確保＞

・福祉サービス実施計画の見直しに当たっては、モニタリングした内容がサービス実施計画に適確に反映されていない部分が見受けられたため、モニタリングした結果をもとに福祉サービス実施計画の策定に取り組んでほしい。

・利用者の支援経過記録やモニタリングで評価分析した結果記録等は職員間で共有できるように箇条書きにするなど読みやすさに配慮した記載にすることが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

評価を真摯に受け止め、引き続き、障がい者の福祉向上に努めます。

ご指摘を頂きました改善を要する事項につきましては、人材育成に重点をおき、施設と法人が連携し改善に努めてまいります。

⑧第三者評価結果

別紙のとおり